

第2章 いなべ市の概要

第1節 位置及び概要

本市は、図 2.1-1 及び図 2.1-2 に示すように三重県の最北部に位置し、平成 15（2003）年に北勢町、員弁町、大安町、藤原町の 4 町が合併して誕生しました。北部と西部は岐阜県と滋賀県に接し、東部と南部は桑名及び四日市圏域に接しています。

市域は、北に養老山地、西に鈴鹿山脈をいだき、本市のほぼ中央を流れる員弁川を挟んで緑豊かな自然と平野に囲まれています。なかでも、鈴鹿国立公園内にある「藤原岳」は全国でも屈指の「花の山」として、年中登山客が絶えることなく、また、同公園内の「竜ヶ岳」が育む宇賀溪も鈴鹿の滝の景勝地として知られています。



図 2.1-1 いなべ市の位置



図 2.1-2 各町の位置

第2節 気象

本市の気候は、鈴鹿山脈及び多度・養老山系からの季節風を受け比較的冷涼で、年間平均気温は 14℃～15℃です。年間降水量は 2,200mm～2,500mm で、冬は寒さが厳しく、三重県内でも降雪の多い地域です。



竜ヶ岳

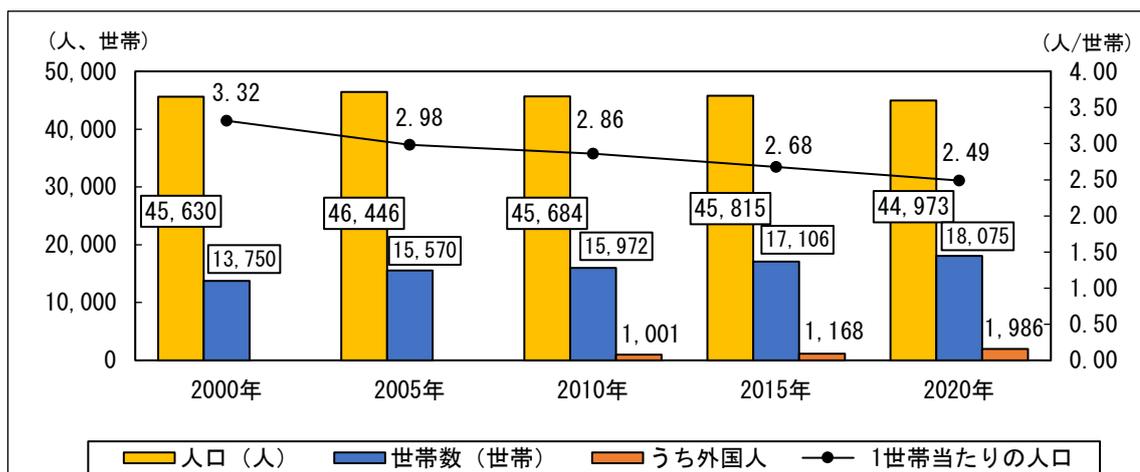
第3節 人口動態

第1項 現在の人口動態

本市の人口は、図 2.3-1 に示すように、平成 12（2000）年から令和 2（2020）年の 20 年間で約 650 人減の 44,973 人と減少傾向にある一方で、世帯数は増加傾向にあり、令和 2（2020）年には 18,075 世帯となりました。また、核家族化の進行により、1 世帯当たり人口が減少傾向にあり、令和 2（2020）年で 2.49 人/世帯です。また、平成 22（2010）年から本市における外国人人口は増加傾向にあり、令和 2（2020）年には 1,986 人となっています。

年齢別人口の割合は、図 2.3-2 に示すように老年人口（65 歳以上）の増加、年少人口（14 歳以下）の減少から少子高齢化が進んでおり、令和 2（2020）年には老年人口の割合が、年少人口の割合の約 2 倍を超えました。

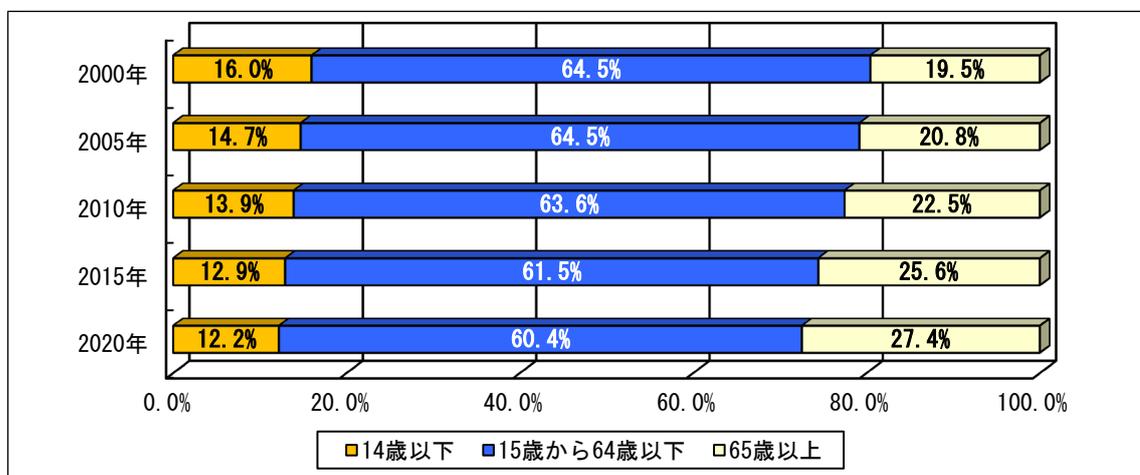
自然増減及び社会増減の動態は、図 2.3-3 及び図 2.3-4 に示すように、出生人数は減少傾向、死亡人数は増加傾向にあります。また、平成 22（2010）年以降、転出入数及び転入人数ともに増加しています。町別の人口比率は、図 2.3-5 に示すように大安町が最も多く、次いで北勢町、員弁町、藤原町の順になっています。



備考：2000 年、2005 年の外国人人口調査は未実施となります。

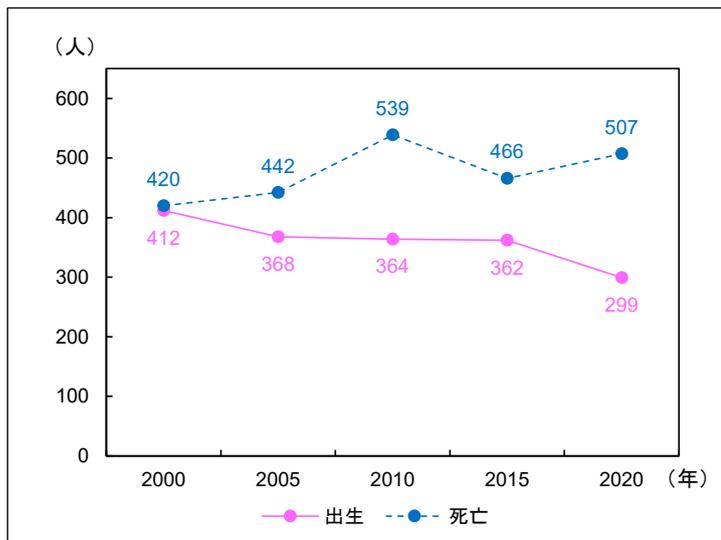
資料：国勢調査

図2.3-1 人口、世帯数及び1世帯当たり人口の推移



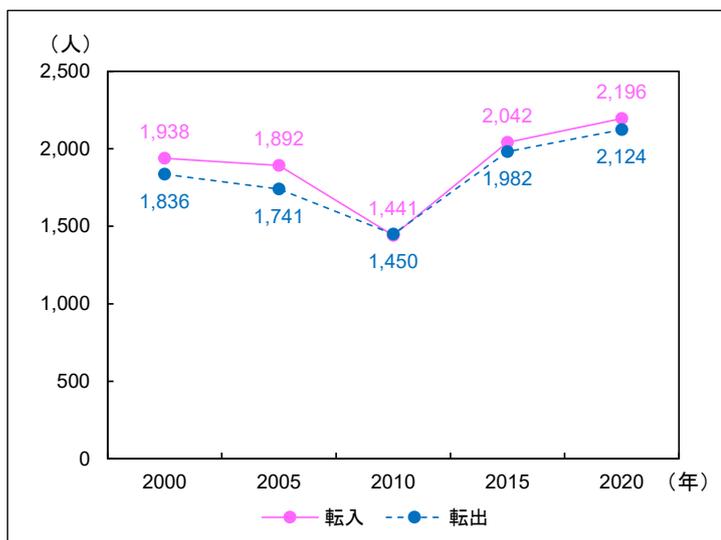
資料：国勢調査

図2.3-2 年齢別人口構成比の推移



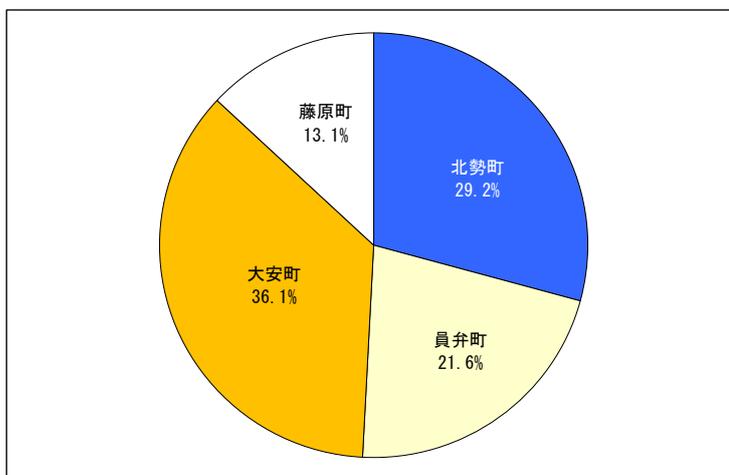
資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

図2.3-3 自然増減の推移



資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

図2.3-4 社会増減の推移



資料：住民基本台帳（2021年10月1日現在）

図2.3-5 町別の人口比率

第2項 将来人口

令和2（2020）年2月に改定された「いなべ市人口ビジョン（令和元年度改訂版）」では、国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計を基に、市独自の推計を行っています。自然増減や社会増減の近年の人口動態から、将来も大きく変動することがないと判断し、本計画でも、市独自推計における将来人口を用いました。

表2.3-1 及び図2.3-6 に示すように、人口は将来的に減少傾向になると推計されており、計画目標年度である令和14（2032）年度には、42,135人となる見込みです。

本計画の計画目標年次におけるごみの発生量及び処理量の見込みは、将来人口を基に推計します。

表2.3-1 将来人口の推移

単位：人

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人口	45,640	45,422	45,073	44,875	44,583
	実績値				計画初年度
年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
人口	44,291	44,000	43,734	43,467	43,201
	推計値	総合計画目標年度	推計値	中間目標年度	推計値
年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和22年度
人口	42,934	42,668	42,401	42,135	40,000
	推計値			計画目標年度	人口ビジョン目標年度

備考1：実績値は、住民基本台帳に登録されている10月1日現在の人口となります。

備考2：推計値は、総合計画の目標年度及びいなべ市人口ビジョン（令和元年度改訂版）の目標年度から、案分により算出しています。

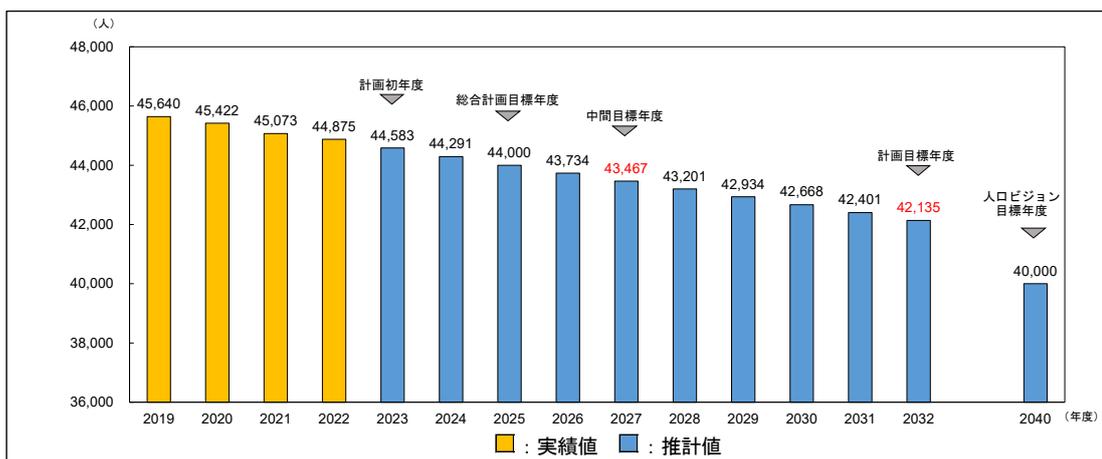


図2.3-6 将来人口の推移

第4節 産業の動向

本市は、三重県の最北部に位置し、名古屋と関西からのアクセスの良さをいかして企業誘致を積極的に行っており、大手自動車関連企業やセメント工場等からなる工業団地があります。

事業所数及び従業者数の内訳をみると、表 2.4-1 に示すように従業者数では製造業が最も多く、全体の約6割を占めています。

また、表 2.4-2 に示すように本市の農業産出額は三重県全体の2.9%、年間商品販売額は三重県全体の1.2%、製造品出荷額等は三重県全体の16.1%を占めています。

表2.4-1 事業所及び従業者数の推移

区 分	平成24年				平成28年			
	事業所数		従業者数		事業所数		従業者数	
	(事業所)	構成比	(人)	構成比	(事業所)	構成比	(人)	構成比
第1次産業	24	1.3%	240	0.9%	34	1.9%	306	1.1%
農業, 林業, 漁業	24	1.3%	240	0.9%	34	1.9%	306	1.1%
第2次産業	641	35.5%	17,801	63.9%	590	32.7%	18,426	63.6%
鉱業, 採石業, 砂利採取業	4	0.2%	123	0.4%	4	0.2%	94	0.3%
建設業	261	14.5%	1,069	3.8%	233	12.9%	994	3.4%
製造業	376	20.8%	16,609	59.6%	353	19.6%	17,338	59.9%
第3次産業	1,139	63.1%	9,812	35.2%	1,181	65.4%	10,228	35.3%
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	13	0.0%
情報通信業	2	0.1%	9	0.0%	3	0.2%	27	0.1%
運輸業, 郵便業	59	3.3%	1,273	4.6%	63	3.5%	1,220	4.2%
卸売業, 小売業	385	21.3%	2,670	9.6%	379	21.0%	2,434	8.4%
金融業, 保険業	17	0.9%	224	0.8%	16	0.9%	274	0.9%
不動産業, 物品賃貸業	20	1.1%	62	0.2%	31	1.7%	108	0.4%
学術研究, 専門・技術サービス業	36	2.0%	134	0.5%	39	2.2%	259	0.9%
宿泊業, 飲食サービス業	149	8.3%	1,234	4.4%	159	8.8%	1,130	3.9%
生活関連サービス業, 娯楽業	142	7.9%	954	3.4%	141	7.8%	882	3.0%
教育・学習支援業	46	2.5%	128	0.5%	48	2.7%	144	0.5%
医療・福祉	104	5.8%	2,051	7.4%	132	7.3%	2,620	9.0%
複合サービス事業	23	1.3%	269	1.0%	21	1.2%	140	0.5%
サービス業(他に分類されないもの)	156	8.6%	804	2.9%	148	8.2%	977	3.4%
公務(他に分類されるものを除く)	対象外	-	対象外	-	対象外	-	対象外	-
総数	1,804	100%	27,853	100%	1,805	100%	28,960	100%

備考：表示桁数以下にも数値があるため、合計が100%にならない場合があります。

資料：総務省統計局事業所・企業統計調査、経済センサス基礎調査、活動調査

表2.4-2 産業動向

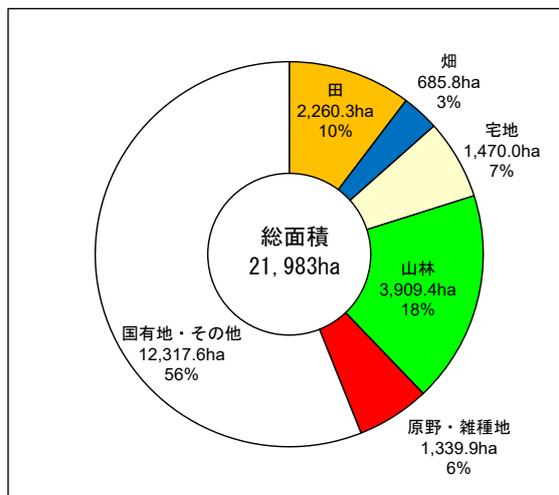
単位：百万円

区 分	いなべ市		三 重 県	備 考
農 業 産 出 額	3,050	2.9%	103,810	令和2年市町村別農業産出額
年間商品販売額	42,550	1.2%	3,471,684	平成26年商業統計調査
製造品出荷額等	1,722,741	16.1%	10,717,256	令和2年工業統計表(製造業計)

第5節 土地利用状況

本市の土地利用状況は、図 2.5-1 に示すように山林が 18%を占めており、農用地（田及び畑）が 13%、宅地が 7%となっています。

また、本市の令和 3（2021）年 2 月現在の都市計画区域は、表 2.5-1 に示すように行政区の約 3 割を占めており、このうち員弁町では市街化区域と市街化調整区域の指定があり、大安町では用途地域が指定されています。



資料：令和 4 年刊三重県統計書

図 2.5-1 土地利用状況

表2.5-1 都市計画区域面積

単位：ha

地区名	行政区面積	都市計画区域				準都市計画区域用途地域	都市計画区域外
		合計	市街化区域	市街化調整区域	用途地域		
北勢町	—	—	—	—	—	—	—
員弁町	—	2,061.6	209.5	1,852.1	—	—	—
大安町	—	4,066.0	—	—	192.1	—	—
藤原町	—	—	—	—	—	71.5	—
計	21,983.0	6,127.6	209.5	1,852.1	192.1	71.5	15,783.9

備考 1：行政区面積は、町別面積が一部確定していないため未記載としています。

備考 2：大安町の都市計画区域面積は、区域が一部確定していないため合計及び用途地域のみ記載しています。

第6節 生活環境

第1項 大気質の状況

三重県の大気汚染常時監視測定局（大安中学校）における本市の二酸化硫黄、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の状況は、表 2.6-1 に示すようにいずれも環境基準を達成しています。

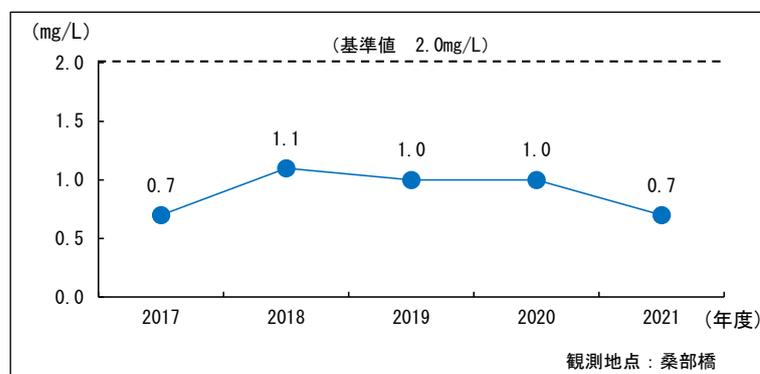
表2.6-1 大気汚染常時監視測定結果（大安中学校）

区分 年度	二酸化硫黄 (SO ₂)	二酸化窒素 (NO ₂)		光化学オキシ ダント (O _x)	浮遊粒子状物質 (SPM)	
	年平均値 (ppm)	年平均値 (ppm)	日平均値の 年間 98%値 (ppm)	環境基準を 超えた日数 (日)	年平均値 (mg/m ³)	日平均値の 2%除外値 (mg/m ³)
平成 29 年度	0.001	0.006	0.013	77	0.013	0.030
平成 30 年度	0.001	0.006	0.013	59	0.013	0.036
令和元年度	0.000	0.006	0.014	70	0.012	0.034
令和 2 年度	0.000	0.006	0.012	61	0.010	0.032
令和 3 年度	0.000	0.006	0.011	54	0.010	0.021
環境基準	日平均値 0.04ppm 以下かつ 1 時間値 0.1ppm 以下	日平均値 0.04~0.06ppm		1 時間値 0.06ppm 以下	日平均値 0.10mg/m ³ 以下か つ 1 時間値 0.20mg/m ³ 以下	

資料：三重県大気汚染常時監視測定結果

第2項 水環境及び水質保全に関する状況

本市の中央部を二級河川員弁川（延長 37km、流域面積 265km²）が流れており、その水系として相場川、田切川、貝野川、山田川、青川、源太川、明智川、宇賀川などが流れ込んでいます。また、藤原町市には昭和 52（1977）年 3 月に竣工した貯水量 16,400,000m³ の中里ダムがあり、農業・工業・水道用水に利用されています。員弁川は、全域が環境基準類型 A に指定されており、環境基準点（桑部橋）における BOD75%値は、図 2.6-1 に示すように環境基準（2.0mg/L）を達成しており、年々減少傾向にあります。



資料：三重県 公共用水域の水質測定結果

図2.6-1 員弁川 BOD75%値の推移

第7節 将来計画

本市の土地利用構想としては、「第2次いなべ市総合計画第2期基本計画」において、以下のとおり土地利用地域を設定し、それぞれの利用方針を定めています。

● 中心市街地と地域拠点

拠点施設の整備や秩序ある開発の誘導を図るとともに、安全で快適な生活空間や自然と調和した居住環境の創出、街並み、景観などに配慮した市街地の整備を進め、人口の集積と定住を図ります。東海環状自動車道の整備が計画されている周辺地域についても計画的な開発を促し、土地の有効活用を図ります。また、市内の各拠点地域においても、商業、サービス、住居等の多様な機能の効果的な整備を図ります。

● 産業拠点

近接する居住環境や自然環境との調和を保ちつつ、健全な産業活動が営まれるような環境の整備と員弁川沿いに広がる優良農地等の保全を図ります。また、高速道路への近接性をいかした、さらなる企業誘致を進め、人や物、情報の集積及び発信の場として一層の機能拡大を図ります。

● 緑の拠点

山林や緑地などの豊かな自然環境を積極的に保全するとともに、自然をいかした憩いやレクリエーションの場として適正に活用します。自然や緑とのふれあいを通じ、市内外の人々が憩い、楽しみ、安らぎを感じながら、多様な交流が生まれる空間としての整備や保全を図ります。



にぎわいの森



聖宝寺 紅葉



北勢線と藤原岳



青川峡キャンプパーク